

山岳トイレし尿処理技術について

1．山岳地におけるし尿処理をめぐる状況について

我が国の山岳地では、一般的に電力供給や給水事情が悪く、また、水温や気温が低いため、浄化槽の設置や維持管理が困難であり、従前は、穴を掘り、貯留し、浸透させる方法が採られ、また、トイレが設置されていない場所では、野外排泄も行われてきた。ヘリコプターによりし尿を搬出する例もあるが、コスト面の問題などがあり、一部の取組に留まっている。

しかしながら、近年、中高年を中心とした登山ブームで多くの人が山岳地を訪れ、し尿による水質への影響、植物への影響等を懸念する声が高まっている。

こうした声の高まりを背景として、山小屋事業者、地方公共団体によるし尿処理改善への取組が進みつつあり、また、環境省においても山小屋事業者を対象とした補助制度を平成 11 年度に創設するなど山岳部のし尿処理の改善にかかる取組を推進しているところ。

他方、このような取組の進展を背景として、浄化槽の設置が困難な場所でも設置可能な非放流型のトイレ・し尿処理装置が、ここ数年で急速に開発、商品化されつつある。

2．技術実証をすることの意義について

平成 13 年度に、インフラが十分に確保されていないと考えられる全国の山小屋（約 300 件）にアンケート調査を実施したところ、現在のし尿の処理方法に「問題ないと思う」と答えた山小屋は 3 割未満に止まり、多くの山小屋においてし尿処理の改善の必要性を認識している実態が浮き彫りとなっている。

他方、新しいタイプのし尿処理装置の導入を検討するに際しては、商品開発者サイドからの情報に頼らざるを得ないために、山小屋事業者等からは、「投資額が大きいかかわらず、想定していた性能が出ない、適切に稼動しないといった問題が発生することはないか」と危惧する声もあり、環境省が主催するシンポジウムにおいても、国による適切な情報提供を求める意見が出されている。

以上のような状況に鑑み、この分野にかかる技術の実証を行い、客観的な情報提供を行うことは、多くの山小屋等において、山岳地及び流域の環境保全に資する適正なトイレ・し尿処理施設の普及・促進を図るうえで、意義あるものと考えられる。